鳥飼地域のエリア設定の考え方について（案）

資料2

1 基本的考え方

鳥飼地域の課題（「防災」、「道路・交通」、「少子高齢化」、「コミュニティ」、「にぎわい」等）の解消には、長期的なビジョンを持ち、中期的な目標を定めて、優先順位を明確にして取り組む必要があり、地域特性（地域的資産や特徴）、今後の環境変化を想定しつつ、未来につなげたい地域像を実現する具体的かつ効果的な取り組みを検討していく必要がある。

ただし、「防災」、「道路・交通」、「少子高齢化」などは、鳥飼地域のみでの対応だけではなく、全市的な視点からの検討も必要。また、「コミュニティ」や「にぎわい」の対象者は、鳥飼地域に限定する必要はなく、鳥飼エリアを超えて検討することも重要。

2 エリアと地域像について（別紙 図 参照）

① 人とものが集まる賑わい（核）エリア

鳥飼地域に唯一の鉄軌道の駅となるモノレール南摂津駅の「駅前」では、一日におよそ延べ約10,000人が乗降者があり、鳥飼地域に居住する方にとっての通勤、通学等の手段となっている。

南摂津駅には、鳥飼近郊都市の住人を集める機能も期待することができるため、鳥飼の玄関口と位置づけ、人とものが集積し、賑わいが生まれる核と位置づけることができる。

また、駅前の賑わいを中心に、住民が健康で地球環境に優しく、フレイルの予防にもなる、歩きたくなる社会の実現は非常に重要なビジョン。

② 居住性向上エリア

A　鳥飼上地区から下地区にかけては、淀川河川公園が整備され、スポーツやバーベキューなどで利用され、堤防道路等は、地域の方々がジョギングや散策などで活用されている。また、このエリアには、淀川から取水している農業用水路が縦横に存在しており、水田もある。

この水路等の水と淀川河川公園を地域の資産として活用すれば、自然を身近に感じる潤いのある、大阪府下でも有数の住みたくなる地域として認められる可能性がある。

B　第五中学校があるこのエリアは、大阪の都心エリアから10km程度であり、令和9年の鳥飼仁和寺大橋の無料化や、将来の十三高槻線の全線開通など自動車による利便性が上がる一方で、北側には広い農業エリア（地域の資産）があり、牧歌的雰囲気の中での生活を楽しむことができる特徴を大切にした居住エリア。

C　南摂津駅の利便性、駅前の賑わいや歩きたくなる空間を十分に享受した居住空間にしていくことが重要。

③ 企業と住民の共存発展エリア

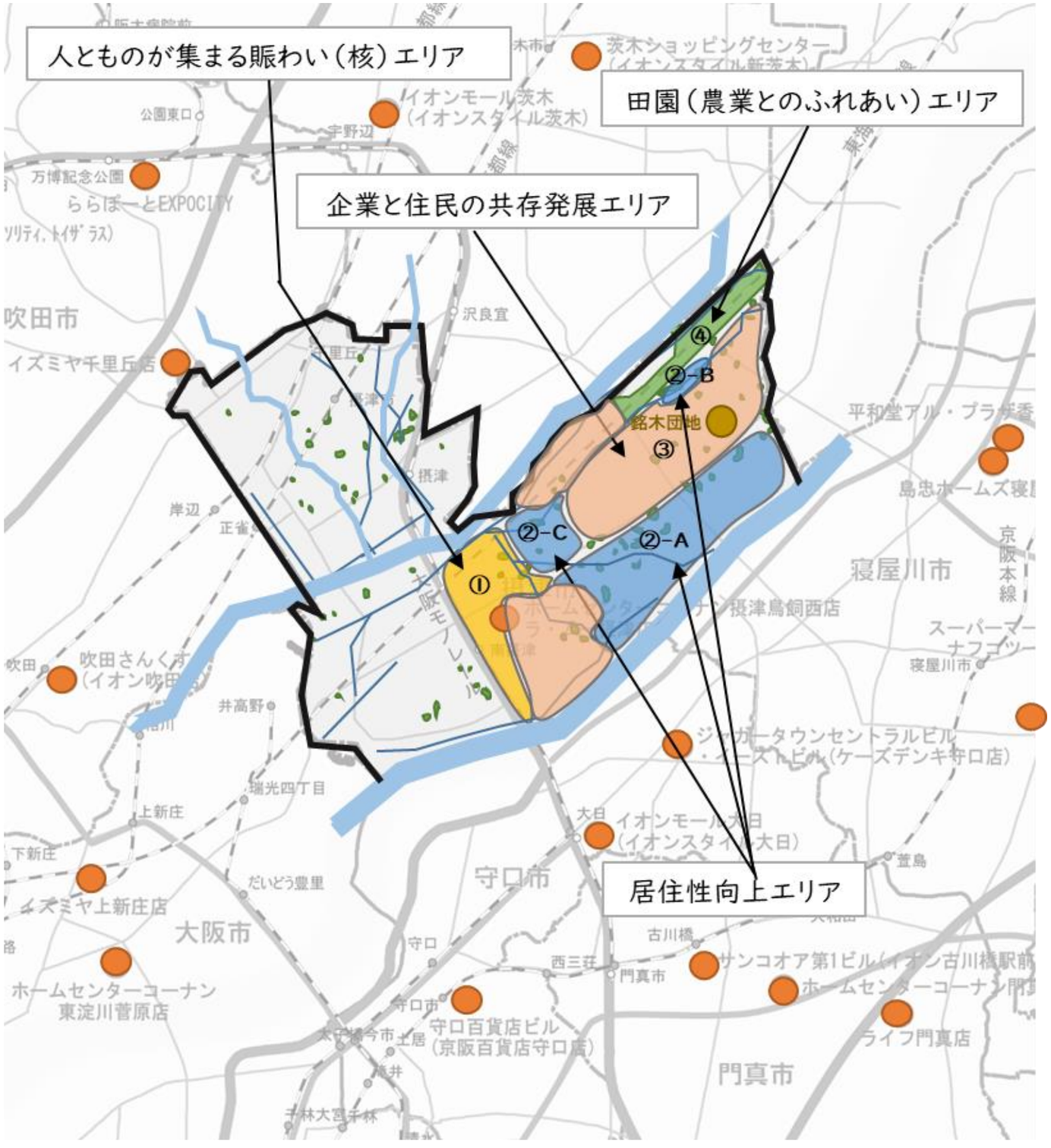
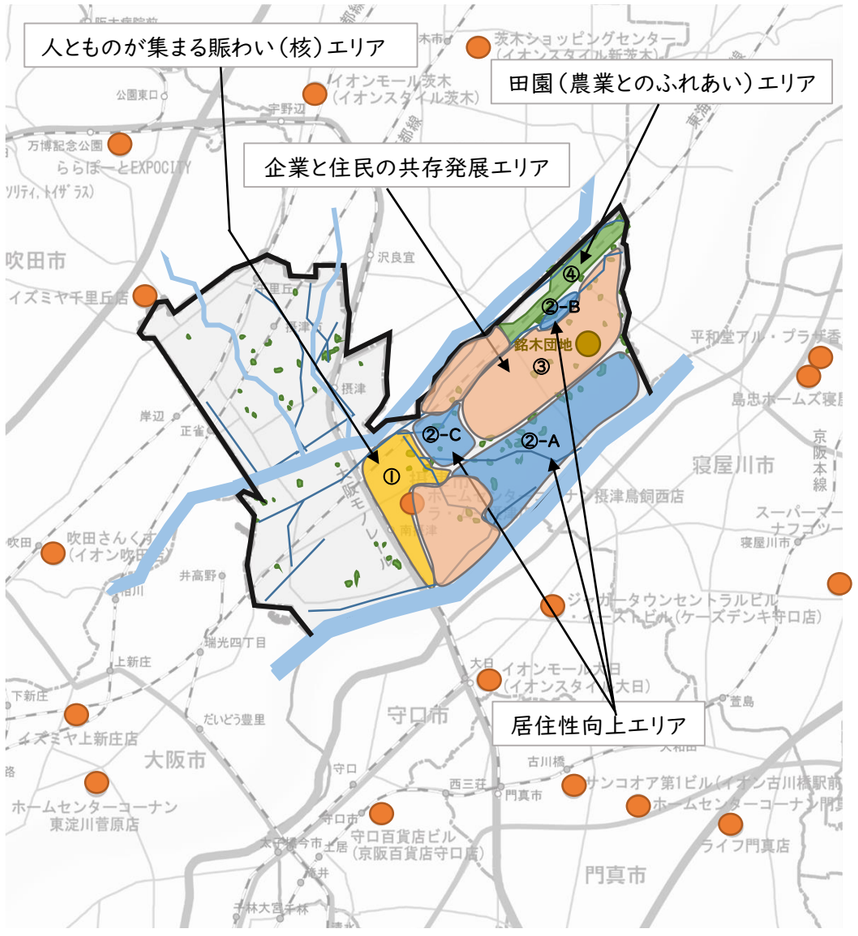
このエリアは、工場や倉庫などの民間企業と民家が混在するエリアであり、同じ水害リスクを企業と住民が抱えている地域である。一度水害が発生した場合は、企業と住民が協働して立ち向かう必要があるため、企業同士はもちろん、近隣住民も含めて、協働して命を守る行動を迅速に行う必要がある。

このため、企業と住民の交流・協働を図りつつ、災害時以外においても良好なつながりを維持し、地域の活力を創出していく。

④田園（農業とのふれあい）エリア

鳥飼八町地区を中心とするこのエリアは豊かな田園が広がり、鳥飼なすといった伝統野菜の栽培や農業体験などを行っている。 令和9年の鳥飼仁和寺大橋の無料化や将来の十三高槻線の全線開通により、市域外からのアクセスも容易となる。

毎日利用できるJAなどの産直場は高槻、茨木の山間部にあるだけであり、周辺に道の駅もないため、新鮮野菜等の直売、農業体験や自然と触れ合いをテーマに、農業を地域資源として活用するエリア。



摂津市（鳥飼地域）地理的特徴・地域資源別のゾーニング